

# 「住民こそ主人公」が原点

## 国の“地方こわし”から市民の暮らし・福祉まもりまます

### 国の悪政から、市民のいのちと暮らしを守る

#### 1. 医療・介護・福祉改悪に立ち向かう

国は、社会保障を口実に消費税増税を強行しておきながら、社会保障予算の「自然増」を削減しつづけ、制度改悪を強行しています。国保の運営主体を2018年度、市町村から都道府県へ移行。市町村が行っている一般会計から国保への繰入をやめさせようとする狙いです。

介護保険が始まって20年。保険料と利用料の負担は倍額、要支援も給付対象から外すなど、「保険あって介護なし」「サービス利用できない保険」になってしまっています。伊豆の国市でも残った保険料が基金に積み上げられているのが実態です。

- 希望者が受けられるPCR検査体制
- 高すぎる国保税さらなる引下げを

市の一般会計からの繰り入れ、国の制度として一兆円の公費負担増を求めていく。「均等（人数）割」を廃止し、サラリーマンの健康保険並みに引き下げを。

- 介護保険料、利用料の軽減・減免をすすめ、特養ホームなどの増設、在宅介護の拡充・改善。「軽度」の人も、必要なサービスが受けられるように
- 伊豆保健医療センターの機能維持と充実を

保健や検診などでも重要な役割を果たしている伊豆保健医療センター。医師・看護師を確保し、入院病床を復活させることが必要です。

- がん検診無料を復活し、受診率を向上させる
- 妊産婦の医療費助成。
- 生活保護の改悪を許さず、生活困窮者の支援体制強化をはかる

#### 2. 災害から住民の命と財産を守る ……防災・減災を最優先に

- 2019年19号台風など、床上浸水や農業被害が頻繁化。内水、支川整備はまったなし。
- 北伊豆地震の教訓踏まえ、心配される新「狩野川断層」視野にいたれた地域防災対策の強化
- 災害時避難所の運営、簡易ベッドなど備蓄品の充実を地区まかせでなく市が本格的に準備を
- 一般住宅の耐震補強への助成拡大



#### 若い人も高齢者も 住んで良かったといえる 伊豆の国市を

#### 3. 高齢者が 生きいき暮らせるまちに

- 「敬老祝い金」一律支給の復活、半減したタクシー券を元に戻す
- 湯の町伊豆の国市の誇れる施策……高齢者温泉施設の無料復活

#### 4. 子育てしやすいまちづくり

- 0歳児保育の実施、幼稚園授業料、保育料の給食費を含め完全無料化
- 学童保育は、条件付きでなく6年生まで希望者全員の受け入れ、学童指導員の待遇改善を
- 子どもの目線で通学路の点検を
- 就学援助、ひとり親家庭への支援の強化、地域の子育てサポート体制の整備

#### 5. 地域経済・町おこし・環境

- 地域に根を張る中小企業、商店街や観光、農業をまもり、地元資源を活かした発展の支援こそ
- 住宅、店舗の新築・リフォーム助成の継続
- 荒廃農地の解消、新規就農者支援、担い手後継者の育成。
- 良質な生ごみ堆肥「農土香」活用で、特産品ブランド化、専門の農業振興公社の設立
- 被害から農産物を守り、農家の営農意欲を維持するために有害鳥獣対策の強化
- 市内ジオサイト、反射炉など自然・文化遺産、農業・地元特産物と結んだ循環型の観光振興
- 「気候非常事態」宣言し、行政・市民・事業所の協力でCO2削減の推進。雑紙回収、生ごみ堆肥化の拡充などごみ減量化。
- ごみ焼却場の広域化を口実にした「ゴミ手数料（ゴミ袋）の大幅な値上げ反対」
- 浜岡原発再稼働は許さない。

#### 6. 近くて利用しやすい公共施設を

- 「公共施設再配置計画」は抜本的に見直しを
- 長岡地域に公共図書館を

